スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

OFFICIAL NEWS LETTER

J.LEAGUE

16 Dec. 2015 Vol.234

J.LEAGUE™ NEWS

©J.LEAGUE PHOTOS

ここ４年間で３度目のＪリーグ王者となった広島。年間勝点１位にふさわしく、安定した戦いぶり、勝負強さを発揮して頂点に到達した

サンフレッチェ広島が年間王者に

ここ4年間で3度目のタイトル獲得。明治安田生命２０１５Ｊリーグチャンピオンシップ決勝でガンバ大阪に1勝1分

Ｊリーグの年間王者を決める明治安田生命２０１５Ｊリーグチャンピオンシップが11月28日、12月2、5日に開催され、サンフレッチェ広島（明治安田生命Ｊ1リーグ2ndステージ優勝、年間勝点1位）が優勝を飾った。広島はホーム&アウェイの決勝でガンバ大阪（年間勝点3位）と対戦。アウェイの第1戦を3−2で勝利した後、ホームの第2戦を1−1で引き分け、1勝1分（2試合合計スコア4−3）の成績でタイトルを獲得した。広島は2012、13年の連覇に続き、3度目となるＪリーグチャンピオン。Ｇ大阪は準決勝で浦和レッズ（同1stステージ優勝、同2位）を延長戦の末に3−1と下して決勝へ進出したが、健闘も実らず昨年に続く連覇は成らなかった。（2〜3ページに関連記事）

J.LEAGUE™ TITLE PARTNER

明治安田生命

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Canon　AIDEM　Coca-Cola　JCB　明治安田生命　コロプラ　ROUTE INN HOTELS　ECC　AEON

J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER 朝日新聞
LEAGUE CUP SPONSOR ヤマザキナビスコ
SUPER CUP SPONSOR FUJI xerox
J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER adidas
J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER スカパー!
SPORTS PROMOTION PARTNER toto
J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER ぴあ
J.LEAGUE™ ASSOCIATE JAPAN AIRLINES
J.LEAGUE™ SUPPORTING COMPANY YAHOO! JAPAN

編集・発行 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

明治安田生命 2015 J.LEAGUE CHAMPIONSHIP

決勝第2戦

綱渡りの緊迫感。広島が「耐えて」優勝

攻守に活躍の青山敏弘（広島）がチャンピオンシップMVPに

2015年12月5日 エディオンスタジアム広島

サンフレッチェ広島 1 1 ガンバ大阪

【入場者数】3万6609人
【主審】西村 雄一
【副審】相樂 亨／名木 利幸
【第4の審判員】村上 伸次

【得点経過】
27分 0−1（G）今野 泰幸
76分 1−1（広）浅野 拓磨

明治安田生命2015Jリーグチャンピオンシップ

優勝 サンフレッチェ広島

第1戦3:2 第2戦1:1

決勝 1

準決勝 3

サンフレッチェ広島	浦和レッズ	ガンバ大阪
年間勝点1位 2ndステージ優勝	年間勝点2位 1stステージ優勝	年間勝点3位

©J.LEAGUE PHOTOS

同点のヘディングシュートを決める浅野（左端）。この1点で優勝の針は広島側に大きく振れた

明治安田生命２０１５Ｊリーグチャンピオンシップ決勝第1戦の3日後に行われた第2戦は、綱渡りのような緊迫感がある一戦だった。ガンバ大阪が27分にMF今野泰幸の3試合連続得点で先制。優勝の行方を大きく左右する次の1点をめぐって、両チームとも後半途中に攻撃的な交代策で勝負を懸けた。

その結果が吉と出たのはサンフレッチェ広島だ。得意のカウンターアタックを仕掛け、MF柏好文のクロスをFW浅野拓磨がヘディングで合わせ、交代出場コンビの活躍で76分に追い付いた。その後は持ち前の堅守がG大阪の得点を許さず。決勝の2試合を1勝1分の成績で、見事に2年ぶり3度目の優勝を飾った。

日本人監督として最多となる3度目のＪ１優勝となった広島の森保 一監督は「2、3点取られるかもしれない流れの中で、耐えるところは耐えて自分たちの流れを引き寄せ、浅野のゴールにつながった」と厳しい戦いを振り返った。

広島には、年間優勝賞金1億円、Ｊリーグ杯（優勝銀皿）、日本サッカー協会会長杯、メダルの他、Ｊリーグタイトルパートナーの明治安田生命保険相互会社より明治安田生命杯「球軌道」が授与された。惜しくも準優勝のG大阪にはJリーグ杯（準優勝銀皿）が贈られた。また、明治安田チャンピオンシップMVPに輝いた広島のMF青山敏弘には、賞金100万円が授けられた。チャンピオンシップの各試合では最も活躍した選手をマン・オブ・ザ・マッチ（賞金50万円）として表彰しており、決勝第２戦は同点ゴールを挙げた浅野が選ばれた。

年間優勝の広島は開催国代表としてＦＩＦＡクラブワールドカップ ジャパン２０１５（12月10〜20日）の出場権を獲得。年間順位は広島の1位、G大阪の2位が確定し、浦和レッズは3位となった（4位以下は年間勝点順）。

©J.LEAGUE PHOTOS

明治安田生命の根岸秋男社長が「球軌道」を授与した

©J.LEAGUE PHOTOS

攻守両面に大車輪の活躍で大会MVPに輝いた青山

©J.LEAGUE PHOTOS

選手らによって宙を舞う森保監督。自身３度目の歓喜だ

村井 満Ｊリーグチェアマン コメント

「サンフレッチェ広島の皆さん、明治安田生命２０１５Ｊリーグチャンピオンシップ優勝、そして2年ぶり3度目のJ1年間チャンピオン、誠におめでとうございます。

堂々たる優勝でした。明治安田生命J1リーグ2ndステージ優勝のときもそうでしたし、本大会の決勝第2戦もそうでしたが、広島の地に満員のお客さまを迎えた中での見事な優勝であったと思います。森保 一監督の『目標はＪリーグ杯』の言葉のとおり、ステージ優勝を決めた後も決して気を緩めることなく、続く明治安田チャンピオンシップでも非常に高いパフォーマンスを発揮しました。決勝第2戦で得点を決めた浅野拓磨選手をはじめとする若手選手の躍進や、若手選手とベテラン選手のバランスの良さが際立っていました。

本大会を通じ、準決勝は1回戦制、決勝はホーム&アウェイのトーナメント方式ということで、負けたら終わりという緊張感の中、ベテラン選手を含めてわずかな隙が命取りになるようなタフな戦いを強いられたと思いますが、どのチームも本当に高い緊張感を持って戦い抜いてくれたと思います。素晴らしい戦いを繰り広げた3クラブをたたえたいと思います」

©J.LEAGUE PHOTOS

Ｊリーグ杯（優勝銀皿）を持つ村井チェアマン（左）と青山

©J.LEAGUE PHOTOS

チャンピオンシップのアンバサダーとして盛り上げに一役買った松木安太郎氏。1993年のチャンピオンシップではヴェルディ川崎（現 東京Ｖ）の監督として指揮を執った

決勝第1戦

アディショナルタイムのドラマ

2015年12月2日 万博記念競技場

ガンバ大阪 2 3 サンフレッチェ広島

【入場者数】1万7844人
【主審】扇谷 健司
【副審】山口 博司／西尾 英朗
【第4の審判員】高山 啓義

【得点経過】
60分 1−0（G）長沢 駿
80分 1−1（広）ドウグラス
81分 2−1（G）今野 泰幸
90+1分 2−2（広）佐々木 翔
90+6分 2−3（広）柏 好文

逆転ゴールを挙げて歓喜の柏（中央）。この試合のマン・オブ・ザ・マッチにも選ばれた。左は塩谷、右はドウグラス

佐々木がヘディングシュートを決めてドラマの幕が開く

G大阪は今野（左）の2試合連続得点も実らず

劇的な展開が待っていたのは、ガンバ大阪が2−1のリードで迎えた後半アディショナルタイムだった。サンフレッチェ広島はMF青山敏弘のクロスから攻撃参加していたDF佐々木翔がヘディングシュートでゴールネットを揺らし、同1分に同点とした。さらに、その5分後、左サイドを攻略した広島が分厚い攻めを見せ、FW浅野拓磨のシュートが相手選手に当たってこぼれたところを、MF柏 好文が決めてついに逆転した。

広島が「劣勢の中でも粘り強く、辛抱強く戦っていく継続力を見せてくれた」（森保 一監督）試合。共にチームの1点目にも絡んだ浅野、柏、そして3点目につながるクロスをゴール前に送ったMF山岸 智はいずれも後半途中から出場した選手たちで、柏は「チャンスが来るときのために、みんなが準備している。それが今シーズンの広島の強さ」と胸を張った。

準決勝から中三日の戦いとなったG大阪は、FWパトリックをFW長沢 駿に代えた以外は、浦和レッズ戦と同じ先発イレブンで臨んだ。60分にはその長沢が相手の守備の連係が乱れたところを逃さず先制。80分に広島のMFドウグラスに一度は同点とされたものの、直後の81分にMF今野泰幸の2試合連続得点で再びリードを奪った。しかし、86分に退場者を出して一人少なくなった後は広島の勢いに押され、逃げ切ることはできなかった。MF遠藤保仁は「もう少し落ち着いて試合を終わらせることができれば良かった」と、終盤の試合運びを悔やんだ。

準決勝

電光石火の勝ち越しゴール

2015年11月28日 埼玉スタジアム2002

浦和レッズ 1 3 ガンバ大阪

【入場者数】4万696人
【主審】松尾 一
【副審】五十嵐 泰之／宮島 一代
【第4の審判員】福島 孝一郎

【得点経過】
47分 0−1（G）今野 泰幸
72分 1−1（浦）ズラタン
118分 1−2（G）藤春 廣輝
120+1分 1−3（G）パトリック

勝ち越しゴールを決める藤春。この日が27歳の誕生日だった

マン・オブ・ザ・マッチの東口。このパスが2点目の起点に

浦和はズラタン（21番）の同点ゴールで一度は追い付く

石火のカウンターアタックを繰り出し、最後はサイドバックのDF藤春廣輝がDF米倉恒貴のクロスをボレーで蹴り込み勝ち越した。この間、17秒余り。G大阪の長谷川健太監督は「若干の運があった」と、この118分の決勝点の場面を振り返る。G大阪はアディショナルタイム1分にもFWパトリックが決めて、浦和レッズを3−1と突き放した。

互いに手の内を知り尽くしているといわれる東西の両雄対決は、共に出方をうかがうような滑り出し。後半開始直後の47分にG大阪のMF今野泰幸が均衡を破ると、浦和の反撃が勢いを増し、72分にFWズラタンが決めて一度は追い付いた。浦和にはさらに決定機が訪れるも、東口の好守などでものにすることができず、ペトロヴィッチ監督は「これほど運に見放されたことはない」と唇をかんだ。

準決勝の行方を大きく左右することになったのは、1−1のスコアで迎えた延長戦後半終了直前の一連のプレーだろう。ガンバ大阪のDF丹羽大輝のバックパスが、GK東口順昭を越えてあわやオウンゴール。ボールがゴールポストに当たってはね返ると、東口を起点とした電光

2015明治安田生命J1リーグ2ndステージ

サンフレッチェ広島が優勝。年間勝点も1位に

ホームのエディオンスタジアム広島で明治安田生命Ｊ１ 2ndステージ優勝、年間勝点１位達成の瞬間を迎えた広島。年間勝点では従来の記録を更新する見事な成績だった

サンフレッチェ広島の２０１５明治安田生命Ｊ１リーグ2ndステージ優勝は、最終節の第17節で決まった。第16節を終えて優勝の可能性があったのは、首位の広島と勝点3差で2位の鹿島アントラーズ。得失点差でも12、広島が上回る優位に立っていた。引き分け以上の結果で自力優勝の広島は、湘南ベルマーレを迎えてMFドウグラスのハットトリックなどで5－0の大勝。第10節以来の首位をキープし、4連勝で有終の美を飾った。広島の森保 一監督は試合後、「優勝争いをできるか、脱落してしまうかという節目の試合が何度かあったが、選手は常にいい準備をして落ち着いて試合に臨んでくれた」と、選手たちの試合に向かう姿勢をたたえた。

明治安田Ｊ１ 2ndステージ優勝と共に、同1stステージ3位の広島がつかんだのは年間勝点1位の座。勝点2差で同2位の浦和レッズとの競り合いを制した。勝点74は、Ｊ1が18チームで年間34節を戦うようになった2005年以来、最多記録となった。

最終節で優勝争いと並んで注目を集めたのが、年間王者を決める明治安田生命２０１５Ｊリーグチャンピオンシップ出場権が懸かる年間勝点３位争い。最終節を3位で迎えたＦＣ東京がサガン鳥栖と0－0で引き分け、同4位のガンバ大阪がモンテディオ山形に4－0と快勝して勝点が並び、得失点差で勝るG大阪がチャンピオンシップ出場権を手中にした。

Ｊ１得点王に輝いたのは、川崎フロンターレのFW大久保嘉人。最終節のベガルタ仙台戦で1得点をマークして今シーズン通算を23点に伸ばし、Ｊリーグ史上初となる3度目、3シーズン連続の栄誉。33歳のベテランストライカーは「ゴールのパターンも攻撃の形も研究される。でも、その裏をかいていくのがやりがいでもある」と、得点へのあくなき意欲を語った。

得点に関しては、湘南戦で1点を挙げた広島のFW佐藤寿人が、ジュビロ磐田などで活躍した中山雅史の持つ157点のＪ１通算最多得点記録に並んだ。なお、大久保が156点で続き、佐藤と共に来シーズンの記録更新が期待される。

また前号でお伝えした山形、清水エスパルスに続き、第16節で松本山雅ＦＣの年間16位以下が確定し、来シーズンはこの3チームがＪ２で戦う。

2ndステージ順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	サンフレッチェ広島	40	17	13	1	3	44	14	30
2	鹿島アントラーズ	37	17	12	1	4	30	16	14
3	ガンバ大阪	31	17	9	4	4	32	24	8
4	浦和レッズ	31	17	9	4	4	30	23	7
5	横浜Ｆ・マリノス	29	17	8	5	4	24	15	9
6	ＦＣ東京	28	17	8	4	5	21	15	6
7	川崎フロンターレ	27	17	8	3	6	30	22	8
8	柏レイソル	27	17	8	3	6	24	18	6
9	湘南ベルマーレ	26	17	7	5	5	20	20	0
10	名古屋グランパス	24	17	7	3	7	26	30	-4
11	アルビレックス新潟	20	17	5	5	7	21	25	-4
12	サガン鳥栖	20	17	4	8	5	15	22	-7
13	ヴィッセル神戸	19	17	6	1	10	27	30	-3
14	ヴァンフォーレ甲府	17	17	4	5	8	14	21	-7
15	松本山雅ＦＣ	13	17	3	4	10	13	28	-15
16	ベガルタ仙台	12	17	3	3	11	17	28	-11
17	清水エスパルス	12	17	2	6	9	15	33	-18
18	モンテディオ山形	10	17	1	7	9	10	29	-19

年間順位表

（2ndステージ最終節終了時）

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	サンフレッチェ広島	74	34	23	5	6	73	30	43
2	浦和レッズ	72	34	21	9	4	69	40	29
3	ガンバ大阪	63	34	18	9	7	56	37	19
4	ＦＣ東京	63	34	19	6	9	45	33	12
5	鹿島アントラーズ	59	34	18	5	11	57	41	16
6	川崎フロンターレ	57	34	17	6	11	62	48	14
7	横浜Ｆ・マリノス	55	34	15	10	9	45	32	13
8	湘南ベルマーレ	48	34	13	9	12	40	44	-4
9	名古屋グランパス	46	34	13	7	14	44	48	-4
10	柏レイソル	45	34	12	9	13	46	43	3
11	サガン鳥栖	40	34	9	13	12	37	54	-17
12	ヴィッセル神戸	38	34	10	8	16	44	49	-5
13	ヴァンフォーレ甲府	37	34	10	7	17	26	43	-17
14	ベガルタ仙台	35	34	9	8	17	44	48	-4
15	アルビレックス新潟	34	34	8	10	16	41	58	-17
16	松本山雅ＦＣ	28	34	7	7	20	30	54	-24
17	清水エスパルス	25	34	5	10	19	37	65	-28
18	モンテディオ山形	24	34	4	12	18	24	53	-29

得点ランキング上位

順位	選手	所属	得点数	順位	選手	所属	得点数
1	大久保 嘉人	川崎Ｆ	23	6	武藤 雄樹	浦和	13
2	ドウグラス	広島	21	7	興梠 慎三	浦和	12
3	宇佐美 貴史	G大阪	19	7	パトリック	G大阪	12
4	豊田 陽平	鳥栖	16	7	佐藤 寿人	広島	12
5	クリスティアーノ	柏	14	10	大前 元紀	清水	11

村井チェアマン（左）が広島の青山に優勝トロフィーを授与

佐藤は湘南戦のチーム３点目でＪ１通算得点記録に並んだ

浦和は年間勝点２位（写真は柏木）

最終節で２得点したＧ大阪の大森

川崎Ｆの大久保は３シーズン連続得点王

村井 満Ｊリーグチェアマン コメント

「サンフレッチェ広島の皆さん、2015明治安田生命Ｊ1リーグ2ndステージ優勝、そして年間勝点1位での明治安田生命2015Ｊリーグチャンピオンシップへの出場おめでとうございます。3万3000人を超える紫に彩られたスタジアムは歓喜に沸きました。今シーズンのリーグ戦において最多得点、最少失点の記録が表すように、攻守にわたってバランスの取れた完成度の高さが印象的でした。新加入選手や若手選手のチームへの融合が求められたと思いますが、森保 一監督の巧みな采配と、ベテラン選手の勝利へ導く献身的な貢献が実を結び、選手それぞれが持ち味を発揮し層の厚さを示しました。今シーズン、浅野拓磨選手、野津田岳人選手をはじめとしたリオデジャネイロオリンピック世代が活躍を見せたことも頼もしく思います。佐藤寿人選手のＪ1リーグ最多得点に並ぶ157得点目のゴールも見事でした。Ｊ1リーグが18クラブ、34節になって以来の年間最多勝点74に示されるとおり、チーム力を結集させた堂々たる戦いぶりでした」

2015明治安田生命J2リーグ

優勝は大宮アルディージャ

ジュビロ磐田が自動昇格の2位確保

見事に1年でJ1復帰を果たすことになった大宮。来シーズンは浦和レッズとの「さいたまダービー」も楽しみだ

順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	大宮アルディージャ	86	42	26	8	8	72	37	35
2	ジュビロ磐田	82	42	24	10	8	72	43	29
3	アビスパ福岡	82	42	24	10	8	63	37	26
4	セレッソ大阪	67	42	18	13	11	57	40	17
5	愛媛FC	65	42	19	8	15	47	39	8
6	V・ファーレン長崎	60	42	15	15	12	42	33	9
7	ギラヴァンツ北九州	59	42	18	5	19	59	58	1
8	東京ヴェルディ	58	42	16	10	16	43	41	2
9	ジェフユナイテッド千葉	57	42	15	12	15	50	45	5
10	コンサドーレ札幌	57	42	14	15	13	47	43	4
11	ファジアーノ岡山	54	42	12	18	12	40	35	5
12	ツエーゲン金沢	54	42	12	18	12	46	43	3
13	ロアッソ熊本	53	42	13	14	15	42	45	-3
14	徳島ヴォルティス	53	42	13	14	15	35	44	-9
15	横浜FC	52	42	13	13	16	33	58	-25
16	カマタマーレ讃岐	51	42	12	15	15	30	33	-3
17	京都サンガF.C.	50	42	12	14	16	45	51	-6
18	ザスパクサツ群馬	48	42	13	9	20	34	56	-22
19	水戸ホーリーホック	46	42	10	16	16	40	47	-7
20	FC岐阜	43	42	12	7	23	37	71	-34
21	大分トリニータ	38	42	8	14	20	41	51	-10
22	栃木SC	35	42	7	14	21	39	64	-25

得点ランキング上位

順位	選手	所属	得点数	順位	選手	所属	得点数
1	ジェイ	磐田	20	6	ネイツ ペチュニク	千葉	14
2	ムルジャ	大宮	19	7	都倉 賢	札幌	13
3	小松 塁	北九州	18	7	江坂 任	群馬	13
4	アダイウトン	磐田	17	7	清原 翔平	金沢	13
5	大黒 将志	京都	16	7	原 一樹	北九州	13

２０１５明治安田生命Ｊ２リーグは、優勝した大宮アルディージャ、2位のジュビロ磐田が昇格を果たし、3～6位のアビスパ福岡、セレッソ大阪、愛媛ＦＣ、Ｖ・ファーレン長崎がJ1昇格プレーオフ出場となった。

第15節から首位をキープした大宮は、第41節で大分トリニータと対戦。勝てば自動昇格の2位以上が決まる一戦で、2点のリードを奪われた。しかし、ホームの大声援をバックに反撃に転じると、FWムルジャの2得点で81分に同点。さらにムルジャへの反則で得たPKを、87分にFW家長昭博が決めて逆転に成功。同日、2位の磐田が横浜FCと0－0で引き分け、1試合を残して勝点差が4と開き優勝が決定した。

昨年9月に就任した大宮の渋谷洋樹監督は「こういう形でＪ２優勝、Ｊ１昇格を手にできたことを非常にうれしく思う。選手たちは最後まで諦めなかった」と、劇的な勝利を振り返った。

一方、2位争いもドラマチック。磐田は3位の福岡と同勝点で迎えた最終の第42節で大分と対戦。1－1と追い付かれた90分の時点で、同時刻開始の福岡はFC岐阜を4－1とリードしていた。最後の力を振り絞る磐田は、アディショナルタイム1分にMF小林祐希が決勝点をマークして2－1の勝利。福岡を得失点差で上回り、3年ぶりのＪ1復帰を決めた。

昨年9月からチームを率いる磐田の名波 浩監督は「1年間、選手たちは本当によく努力したし、下を向かず、チームがばらばらにならずに、強い意志を持ってやってくれた」と、選手たちの頑張りをたたえた。

また、21位の大分はＪ２・Ｊ３入れ替え戦に出場し、22位の栃木SCは来シーズン、J3に戦いの舞台を移す。

第41節の大分戦、落ち着いてPKを決める大宮の家長

磐田は大分戦で小林（右から２人目）が値千金の決勝ゴール

2015明治安田生命Ｊ３リーグ

1年目のレノファ山口FCがタイトル獲得

山口県から初のＪクラブとなった山口は１年目で優勝、昇格という快挙を達成した

最終の第39節を前にレノファ山口ＦＣ、ＦＣ町田ゼルビアに絞られた2015明治安田生命Ｊ３リーグの優勝争いは、Ｊリーグ入会1年目の山口が制し、Ｊ２昇格を決めた。惜しくも2位に甘んじた町田はＪ２・Ｊ３入れ替え戦に出場することになった。

山口の上野展裕監督は優勝決定後、「選手は今まで経験したことのないような心理状態になって、最後まで（優勝争いが）もつれた」と話した。町田の急激な追い上げによって、同勝点で最終節を迎えることになった両チーム。ガイナーレ鳥取とアウェイで対戦した山口は、72分に勝ち越しを許し、1－2と厳しい状況に立たされた。試合はアディショナルタイムに入り、最後の攻撃を仕掛けた山口は、同1分に交代出場したMF平林輝良寛がその5分後に起死回生の同点ゴール。この直後に試合終了のホイッスルが鳴り響き、土壇場で2－2の引き分けに持ち込んだ。町田もＡＣ長野パルセイロと1－1のドローに終わったため、得失点差で勝る山口が第2節からの首位を守り抜いた。

順位表

順位	チーム	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	レノファ山口FC	78	36	25	3	8	96	36	60
2	FC町田ゼルビア	78	36	23	9	4	52	18	34
3	AC長野パルセイロ	70	36	21	7	8	46	28	18
4	SC相模原	58	36	17	7	12	59	51	8
5	カターレ富山	52	36	14	10	12	37	36	1
6	ガイナーレ鳥取	50	36	14	8	14	47	41	6
7	福島ユナイテッドFC	49	36	13	10	13	42	48	-6
8	ブラウブリッツ秋田	45	36	12	9	15	37	40	-3
9	FC琉球	45	36	12	9	15	45	51	-6
10	藤枝MYFC	37	36	11	4	21	37	61	-24
11	グルージャ盛岡	35	36	8	11	17	36	47	-11
12	Jリーグ・アンダー22選抜	28	36	7	7	22	28	71	-43
13	Y. S. C. C. 横浜	27	36	7	6	23	24	58	-34

得点ランキング上位

順位	選手	所属	得点数	順位	選手	所属	得点数
1	岸田 和人	山口	32	5	佐藤 悠希	長野	12
2	福満 隆貴	山口	19	7	樋口 寛規	相模原	11
3	島屋 八徳	山口	16	8	前山 恭平	秋田	10
4	大石 治寿	藤枝	14	8	鈴木 崇文	町田	10
5	鈴木 孝司	町田	12	8	中山 仁斗	鳥取	10

町田（白）は最後の９試合を７勝２分の猛追で山口に迫った

2015 J.LEAGUE ROAD TO J1 PLAY-OFFS

アビスパ福岡が5年ぶりにJ1へ

中村北斗が値千金の同点ゴール

念願のJ1昇格を達成して歓喜の福岡。キャプテンのMF城後 寿が優勝楯をサポーターに向かって掲げる

2015J1昇格プレーオフ

優勝 アビスパ福岡

- 決勝 1－1
  - 準決勝 1－0：アビスパ福岡（3位） ／ V・ファーレン長崎（6位）
  - 準決勝 0－0：セレッソ大阪（4位） ／ 愛媛FC（5位）

2015J1昇格プレーオフは、アビスパ福岡（明治安田生命J2リーグ3位）とセレッソ大阪（同4位）の顔合わせで12月6日に決勝が行われ、90分の戦いで1－1の引き分けに終わった。この結果、年間順位の優位性を確保する規定によって福岡が勝者となり、5年ぶりとなるJ1復帰を果たした。

すでにことし3月に決戦の会場として決まっていたヤンマースタジアム長居の舞台に駒を進めたのは、11月29日の準決勝でそれぞれV・ファーレン長崎（同6位）、愛媛FC（同5位）を退けた福岡とC大阪。福岡は48分のFWウェリントンの決勝点によって長崎を1－0で下し、C大阪は愛媛と0－0に終わったものの、前述の規定によって勝ち抜いた。

きっ抗した試合展開となった決勝で、均衡が破れたのは60分。素早い縦への攻めからFW玉田圭司が流し込み、C大阪が待望のリードを奪った。一方、「ビハインド（リードされた状況）のトレーニングもしていた」（井原正巳監督）福岡は慌てることなく得点チャンスをうかがい、87分にDF中村北斗が右サイドの難しい角度ながら、こん身の力を込めたシュートで左サイドネットを揺らして同点ゴールをマーク。井原監督は「チーム全員の一体感、思いがあのゴールにつながった」と感慨深げに語った。

6年ぶりに福岡へ戻った中村が大きな仕事を果たした

福岡のウェリントン（左から4人目）が準決勝の長崎戦で決勝点

準決勝で競り合うC大阪の山口 蛍（右）と愛媛の小島秀仁

決勝でC大阪の先制点をマークする玉田（右）

2015J2・J3入れ替え戦

FC町田ゼルビアが2連勝。4年ぶりのJ2復帰

2015J2・J3入れ替え戦

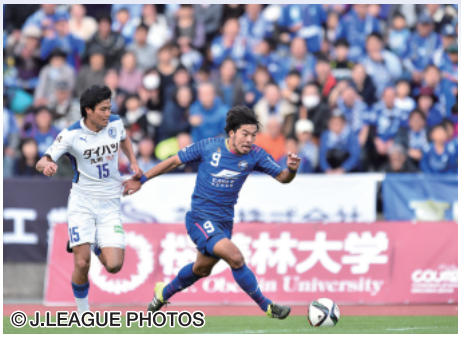
第1戦	FC町田ゼルビア	2－1	大分トリニータ
第2戦	大分トリニータ	0－1	FC町田ゼルビア

明治安田J3で追い上げた勢いをそのままに、2連勝で見事に昇格を勝ち取った町田

ホーム&アウェイで11月29日、12月6日に開催された2015J2・J3入れ替え戦は、FC町田ゼルビア（明治安田生命J3リーグ2位）が大分トリニータ（明治安田生命J2リーグ21位）との対決を2－1、1－0で制し、4年ぶりのJ2復帰を決めた。

ホームの第1戦では、22分にFKから大分のDFダニエルにヘディングで先制点を許した。しかし、町田の攻撃への意欲は衰えず、前半アディショナルタイム2分にはFW鈴木孝司が同点ゴールをマーク。72分にも鈴木孝が得点して、逆転勝利をつかんだ。

第2戦では前半にPKのピンチがあったものの、GK髙原寿康が判断よくセーブ。「前半を0－0で帰ってきたことが大きかった」と町田の相馬直樹監督。逆に後半はカウンターアタックから相手の反則を誘い、PKを獲得。これを58分に鈴木孝が決めてリードし、大分の反撃をかわして2連勝を飾った。


入れ替え戦で町田の全得点を挙げた鈴木孝（右）

シーズンを通して厳しい戦いが続いた大分は、J1を経験（2003～09、13年）したクラブとしては初めて、J3で戦うことになった。

TOPICS トピックス（10月22日～11月24日）

※各項目の詳細については、Jリーグ.jp（http://www.jleague.jp/）を参照

2015年Jリーグサポーティングカンパニー契約決定

Jリーグは、ヤフー株式会社とJリーグサポーティングカンパニー契約を締結することを決定した。

カテゴリー／契約社名	契約区分	契約開始年
Jリーグサポーティングカンパニー ※		
ヤフー株式会社	**新規**	**2015年～**

※新設：Jリーグの事業戦略上、必要とするアセットを提供するカテゴリー

2016シーズン J3クラブライセンス判定結果（FC琉球）

Jリーグは11月17日に開催した理事会で、10月の理事会より継続審議となっていたFC琉球の2016シーズン J3クラブライセンスの交付判定について、下記のとおり決定した。

	クラブ名	判定結果
判定結果	FC琉球	J3クラブライセンス交付

Jリーグ入会審査（J3）結果

Jリーグは11月17日に開催した理事会で、J3入会を申請していた鹿児島ユナイテッドFCに対し、Jリーグへの入会を承認した。クラブの概要は下記のとおり。

鹿児島ユナイテッドFC			敬称略
法人名	株式会社 鹿児島プロスポーツプロジェクト 代表取締役社長：徳重 剛		
所在地	鹿児島県鹿児島市山之口町1-10 鹿児島中央ビルディングB1		
所属リーグ	日本フットボールリーグ（JFL）		
ホームタウン	鹿児島市	ホームスタジアム	鹿児島県立鴨池陸上競技場

「アジア・チャンピオンズ・トロフィー U－18 2015」鹿島アントラーズユースが優勝

鹿島アントラーズユースが、初出場した「アジア・チャンピオンズ・トロフィー U－18 2015」で優勝を飾った。Jクラブとして初めて本大会に参加した鹿島ユースは、11月11、18日にホーム&アウェイで行われた決勝でフレンツ・ユナイテッドA（マレーシア）と対戦。ホームの第1戦で3－0と快勝した後、第2戦を1－1で引き分け、1勝1分の成績で国際タイトルを獲得した。

本大会はマレーシアサッカー協会、フレンツ・ユナイテッド・フットボールクラブが主催し、アジアサッカー連盟が公認。参加8チームを4チームずつ2グループに分けたグループステージ後、各グループ上位2チームによるノックアウトステージが行われた。

決勝で対戦した鹿島ユースとフレンツの選手たち

第1回 Jリーグトラッキングデータコンテスト

11月14日に慶應義塾大学三田キャンパスで「第1回 Jリーグトラッキングデータコンテスト」のプレゼンテーション大会が開催された。応募71作品の中から選ばれた5作品のプレゼンテーションが行われ、最優秀賞を受賞したのは米村俊亮さんの「サポラン」。選手の走行距離データを活用したランニングアプリで、ランニングの継続を促す機能と共に、選手やファン・サポーター間の交流、Jリーグの興味向上を目的とした点などが高く評価された。審査員を務めた株式会社コロプラの馬場功淳 代表取締役社長は「非常に完成度が高く、審査員全員が高い得点をつけた」と絶賛。米村さんは「可能であれば本気でこのアプリをつくりたい」と意欲を示した。

また、FC.CLA（昭和女子大学）が提案した、データを基にプレースタイルの似ている選手を検索するアプリ「次の日本代表を探せ！ Next Hero Seeker」と、走力と勝敗の関係性を分析した完倉信宏さんの「チーム“走力”についての考察」が審査員特別賞を受賞した。

10月度の月間ベストゴール、月間MVPが決定

各月の明治安田生命J1リーグで最も優れたゴールを表彰する「月間ベストゴール」の10月度受賞ゴールに、サンフレッチェ広島のMF柴崎晃誠が2ndステージ第14節の川崎フロンターレ戦（10月17日）で50分に決めた得点が選ばれた。月間ベストゴールは、年間で最も優れたゴールに与えられる「年間最優秀ゴール賞」のノミネートゴールとなり、同賞は12月21日（月）に開催される2015Jリーグアウォーズで表彰される。

また、各月の明治安田J1・J2で最も活躍した選手を表彰する「明治安田生命Jリーグ コカ・コーラ 月間MVP」の10月度受賞選手に、J1は横浜F・マリノスのMF中村俊輔、J2はジュビロ磐田のFWジェイが選出された。受賞選手には賞金として、J1は30万円、J2は20万円が授与される。

川崎F戦の柴崎。シュートは美しい軌道を描いて決まった

圧倒的な存在感でチームをけん引した中村

10月の4試合で3得点をマークしたジェイ

Jリーグヒューマンキャピタル（JHC）が日本の人事部「HRアワード2015」最優秀賞受賞

プロスポーツの将来を担うマネジメント人材の育成のため、本年発足した「Jリーグヒューマンキャピタル（JHC）」が、日本の人事部「HRアワード2015」プロフェッショナル部門の教育・研修部門で最優秀賞を受賞した。JHCのプログラムの特色であるプロスポーツビジネスの世界で活躍する経営人材育成の取り組みが、先進的かつ革新的であるとして多くの経営者や人事担当により高く評価された。

子供の未来応援国民運動を後援

Jリーグは11月17日に開催した理事会で「子供の未来応援国民運動」の後援を決定した。この運動は、子どもの将来が生まれ育った環境によって閉ざされることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図り、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目的として、子供の未来応援国民運動推進事務局（内閣府、文部科学省、厚生労働省、日本財団）が実施する。

2015明治安田生命J1・J2・J3リーグの入場者数

Jリーグは11月22日に明治安田生命J1リーグ、23日に明治安田生命J2・J3リーグを終え、入場者数合計が917万8812人となり、1シーズンで初めて900万人を突破した。昨年の876万4301人と比べ104.7%となった。

明治安田J1では、満員試合（収容率80%以上）が昨年の45試合から68試合に増加した。平均入場者は1万7803人で昨年比103.3%。2ndステージ第17節の平均2万8152人はJリーグ史上4番目の記録となった（最多は1994JリーグNICOSシリーズ第7節の3万681人）。明治安田J2の平均入場者は6845人で昨年比103.9%、明治安田J3は2432人で同108.2%と増加した。

累計入場者はJ1が544万7602人、J2が316万2194人、J3が56万9016人で、前年からそれぞれ17万2215人、11万8246人、12万4050人の増加。J2の累計入場者数は、Jリーグ史上最多を記録した。

〈特別企画〉

2015シーズン パートナーとともに

～Jリーグを盛り上げた多彩なイベント～

Jリーグがスタートして23年となる2015シーズン、Jリーグのクラブは52に増え、37都道府県に広がった。明治安田生命J1・J2・J3リーグの試合には、Jリーグ史上初めて1シーズンで延べ900万人を超えるファン・サポーターが足を運び、ピッチ上で繰り広げられる熱戦を見守った。創設以来、数多くの人々によって支えられ、成長を続けるJリーグ。その理念に賛同し、それぞれの特色を生かしたイベント開催などでJリーグを盛り上げ、スポーツ振興や社会貢献に取り組むオフィシャルパートナーも頼もしい仲間だ。今シーズンのJリーグに彩りを添えたパートナー各社の活動を紹介しよう。

明治安田生命保険相互会社

Jリーグタイトルパートナー／Jリーグトップパートナー

明治安田生命 Presents JリーグMYサッカー教室

Jクラブのない地域も含み、小学生を対象としたサッカー教室を全国で150回以上開催。参加した子どもたちは笑顔でサッカーを楽しんだ

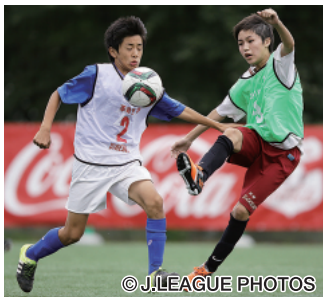
日本コカ・コーラ株式会社

Jリーグトップパートナー

Jリーグ コカ・コーラ 月間MVP

各月のJ1・J2で最も活躍した選手を表彰。写真左は4月度受賞者、ガンバ大阪の宇佐美貴史選手

COPA COCA-COLA 2015



3度目となる今大会。全国各地でサッカー経験や実力、性別を問わず自由にサッカーを楽しんだ

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社

Jリーグトップパートナー

キヤノンサービスデポ

本年もヤマザキナビスコカップ決勝でカメラ機材のメンテナンスサービスを実施。一つ一つ丁寧に点検、整備、クリーニングを行い、プロフォトグラファーをサポートした

株式会社ジェーシービー

Jリーグトップパートナー

エンタメポータルサイト「J×J FIELD」

Jリーグのホームタウン情報などを紹介するポータルサイト「J×J FIELD」で、JCBギフトカードやプレゼントが当たるキャンペーンを実施

株式会社アイデム

Jリーグトップパートナー

アイデムしごと探検隊

東京ではJリーグ、大阪ではガンバ大阪を訪問し、サッカーにまつわる仕事を探検した。G大阪で建設中（開催時）の新スタジアムをバックに

株式会社コロプラ

Jリーグトップパートナー

コロプラのクマ スタジアムに登場！

コロプラのコーポレートキャラクター「クマ」（中央）がJ1のスタジアムを訪問。サンフレッチェ広島（写真）、湘南ベルマーレ、FC東京でクラブマスコットやサポーターと交流した

ルートインジャパン株式会社

Jリーグトップパートナー

ファン・サポーターのための楽しくおトクなサイト「FUN! JOY! STADIUM」

Jリーグ観戦チケットの提示で宿泊代が割引に。選手直筆のサイングッズプレゼントキャンペーンなども実施

イオンリテール株式会社

Jリーグトップパートナー

ホームタウンゲットチケットキャンペーン

全国のイオングループの対象店舗で、お買い上げレシートによる申し込みで全52チームの観戦チケット他、Jリーグ関連賞品が当たるキャンペーンを実施した

株式会社ECC

Jリーグトップパートナー

ECC HAPPY シュートキャンペーン2015

ジャンプの瞬間の写真にイベント実施スタジアムの背景を合成して、参加したサポーターにプレゼント

朝日新聞社

Jリーグ百年構想パートナー

朝日新聞ファミリーサッカースクールin札幌

ファミリーサッカースクールを開催。親子で汗を流して楽しんだ

朝日新聞お仕事体験in松本

アルウィンでホームゲームの運営の仕事を体験。ゲートではお客さまをお出迎え

富士ゼロックス株式会社

スーパーカップスポンサー

FUJI XEROX SUPER CUP 2015

ことしの大会は昨シーズンの国内三冠を達成したガンバ大阪が覇者に

富士ゼロックス株式会社が特別協賛している「FUJI XEROX SUPER CUP」は、前シーズンのJリーグチャンピオンと天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームが対戦する。Jリーグ開幕の1週間前に開催されており、Jリーグのシーズン開幕を告げる大会としてサッカーカレンダーに定着。Jリーグがスタートした翌年の1994年に始まり、2015年までに22度の開催を数えた。試合前にはピッチ内外でさまざまなイベント、アトラクションも行われ、シーズン開幕を待ちわびてスタジアムを訪れた人々の気持ちを一層浮き立たせてくれる。

J1・J2クラブのマスコット集合も恒例。センターポジションは総選挙で決定する

ヤマザキナビスコ株式会社

リーグカップスポンサー

2015 Jリーグ ヤマザキナビスコ カップ

鹿島アントラーズが自らの最多記録を更新する6度目の優勝

明治安田生命J1リーグに属する18クラブによって争われているのが、ヤマザキナビスコ株式会社が特別協賛する「Jリーグヤマザキナビスコカップ」だ。Jリーグがスタートする前年の1992年に始まり、2015年が23度目の大会(95年は開催されず)。同一企業のスポンサードで最も長く開催されているプロサッカーリーグの大会としてギネス世界記録を更新中だ。準決勝まで最も顕著な活躍を見せた23歳以下(大会開幕時)の選手を表彰する「ニューヒーロー賞」、各試合会場で行われる「ナビスコキッズイレブン」のイベントも、すっかりおなじみとなった。

ナビスコキッズイレブンでは決勝が行われる舞台に立てるチャンスも

23回目を迎えた大会で初の決勝進出を果たし、優勝した浦和ユース。今大会の6試合でわずか2失点の堅守も光った

浦和の同点ゴールを決めた渡辺。左は名古屋の梶山

試合終了後に交流を深めた両チームの選手たち

「2015 Jユースカップ 第23回 Jリーグユース選手権大会」は11月15日にヤンマースタジアム長居で決勝が行われ、浦和レッズユースが、4年ぶり2度目のタイトル獲得を目指した名古屋グランパスU18を逆転で2−1と下し、初優勝を飾った。

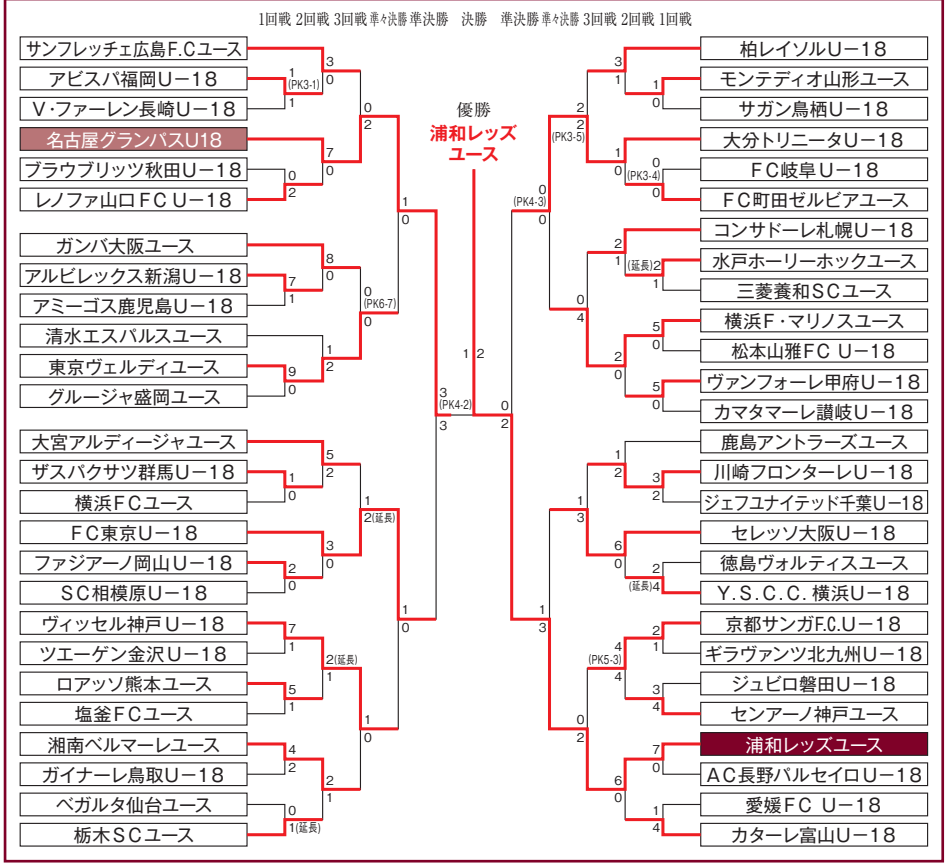
試合は名古屋が3分に先制して幸先のいいスタート。左サイドをドリブル突破したDF吹ヶ(ふけ)徳喜の折り返しを、FW北野晴矢が決めた。一方、浦和は30分、ゴールのバーに当たってはね返ったボールをMF渡辺 陽がヘディングで押し込み同点に追い付くと、前半終了直前の45分には、CKのチャンスで相手のオウンゴールを誘って逆転に成功した。

浦和のゲームキャプテンを務めた渡辺は「この大会ではベスト4にも行ったことがないと聞いていた。絶対に負けたくないという気持ちで戦えたのがよかった。最高にうれしい」と喜びを表した。

また、昨年に引き続き、より良き宮崎牛づくり対策協議会、みやざきブランド推進本部より準々決勝進出8チームに宮崎牛と完熟マンゴーなどが、優勝クラブには宮崎ブランドポーク普及促進協議会より宮崎ブランドポークが贈呈された。

2015 Jユースカップ 第23回 Jリーグユース選手権大会

主催：公益財団法人 日本サッカー協会／公益社団法人 日本プロサッカーリーグ／朝日新聞社／日刊スポーツ新聞社
共催：一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟　　協賛：株式会社日本旅行



村井 満 Jリーグチェアマン コメント

「浦和レッズユースの選手、そしてチームスタッフの皆さん、Jユースカップ初優勝、誠におめでとうございます。『負けたら終わり』という一発勝負のトーナメント制となった今大会、初戦から決勝まで緊張感のある試合を勝ち抜いたそのチーム力は称賛に値します。

両チームの主導権争いを象徴するかのように降雨と晴天がめまぐるしく入れ替わったこの試合、難しいコンディション、そしてけがなどアクシデントも重なる難しい試合展開を制したのは、浦和ユースでした。浦和ユースは開始早々の3分に名古屋グランパスU18に先制を許しながら、ペースを乱すことなく、落ち着いた試合運びを見せると、相手選手の退場に伴い数的優位に立ったことを生かし、前半終了までに立て続けに2点を奪い逆転しました。好機を逃さず、ハードワークを惜しまず、相手ペナルティーエリアに気持ちで押し込んでいく力強さは見事でした。

対する名古屋U18も、フィールドプレーヤーが1人少ない状況でありながら、後半は見事にチームを立て直し、試合終了の笛まで攻め続けました。惜しくも1点が届かなかったものの、その健闘ぶりは、試合を見ていた多くの人に感動を与える内容でした。あらためて、浦和ユース、名古屋U18の両チームの皆さんには、心より拍手を送りたいと思います。この大会で活躍した選手が今後もさらに成長し、2020年の東京オリンピックでは日本代表のメンバーとして活躍してくれることを願ってやみません。

最後になりましたが、本大会にご協力いただきました朝日新聞社さま、日刊スポーツ新聞社さま、株式会社日本旅行さまには、あらためて御礼申し上げます」

優勝カップを授与した村井チェアマン